

# ごみ処理施設が使えない！減量化の方策を考えよう

矢板市  
矢板市役所市民生活部

17班 コミュニティデザイン学  
建築都市デザイン学科  
社会基盤デザイン学科  
会田紗瑛 塚田淳  
横山貴則 菱田初美  
田仲慎太郎

## ①背景

矢板市が近隣の塩谷町、高根沢町、さくら市と共同でゴミ処理を行っている「塩谷広域清掃センター」の利用期限が2019年6月に迫り、新しい処理場が期限内に稼働出来なければゴミ処理自体が止まってしまう可能性があった。しかし6月から新施設「エコパークしおや」の稼働が始まったため、ゴミが処理できないという事態は避けられた。

矢板市ではこのような状況も踏まえ、ゴミの減量に取り組んでいる。事実、矢板市のゴミの排出量は減少にあり、市民1人当たりのゴミの量も全国平均・県平均を下回っている。しかし人口は減り続けているのにゴミの排出量は下げ止まっている。また1人1日当たりのゴミ排出量は横ばいから微増に転じている。

この現状を踏まえ、今回我が班ではゴミの減量、特に排出量の80%を占める燃えるゴミの減量に取り組むことになった。

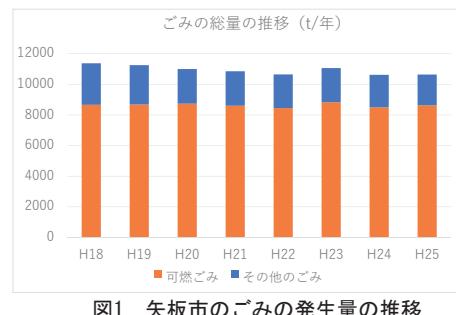


図1 矢板市のごみの発生量の推移

## ②目的

○本来資源となる紙ごみが、燃えるごみとして多く捨てられている  
⇒分別を徹底することで燃えるごみを減らす。

調査では矢板市民の普段の分別の仕方、分別に関する意識調査を行う。

## ③方法

矢板市内のスーパーマーケットにて、矢板市民を対象にアンケート調査を実施。

人数：112人

質問項目

質問1：以下7項目を「燃えるごみ」「紙ごみ」のどちらで捨てるかを調査

- ・紙パック
- ・新聞紙
- ・チラシ(広告)
- ・プリント用紙
- ・ノートブック
- ・付箋
- ・ティッシュペーパー

質問2：基礎調査

- ・年齢
- ・性別
- ・家族構成

質問3：意識調査

- ・紙ごみを燃えるごみとして捨てた経験
- ・燃えるごみとして捨ててしまった理由
- ・矢板市のごみの分別の仕方についてどう感じているか

## ④分析結果

○ごみの捨て方（図2）から

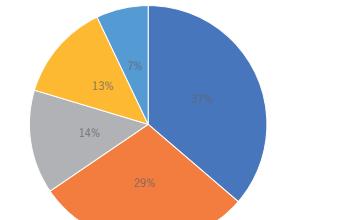
- ・紙パック、新聞紙、ノート類は半数以上が分別できている
  - ・チラシ、プリント類、付箋は燃えるごみとして出す人が多い
- 分別ルールの周知が必要

○意識調査（図3, 4）から

- ・紙ごみが少量でわざわざ捨てるのが面倒、分別することで2度捨てに行かなければならず、精神的・体力的な負担を感じる市民が多くいた
  - ・半数以上が今の分別方法が適切と答えたがしっかり分別されていない
- 分別に关心をもってもらう  
分別ルールの周知が必要

紙ごみだとわかっていても、紙ごみを燃えるごみに捨てた経験はあるか

ある……80人 ない……32人



- 個人情報などが記載されている紙ごみを資源ごみとして捨てるのが嫌だ
- 分別が面倒くさい
- 分別に关心がない
- 忙しくて分別する暇がない

図3 意識調査 i

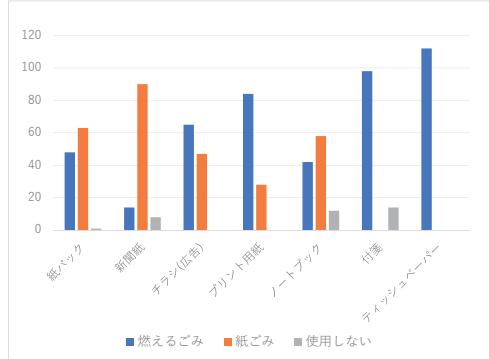


図2 主な紙ごみの捨てられ方

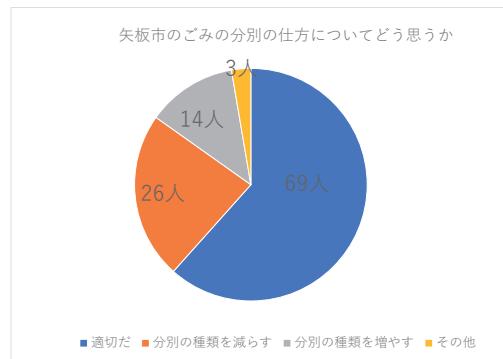


図4 意識調査 ii

## ⑤提案

### 空き家の活用

「ゴミ捨てが楽しくなる」施設を設置する。  
ゴミ捨ての回数を増やすことによって分別をし  
たくなるように促すために、空き家を交流ス  
ペースとして開放し、地域の居場所とすること  
を提案する



### 活動の提案

- ・雑談
- ・子育ての相談教室
- ・健康の相談
- ・料理教室
- ・地域のお年寄りと一緒に昔の遊びをする
- ・学校の通学班の拠点とし、ゴミの分別ルールについての周知を行う
- ・地域住人による通学班の見守り

### イベント

ゴミの分別に関するルールを周知出来るよう  
なイベントを定期的に開催。ルールの周知のみな  
らず、小学生からお年寄りが集まることによっ  
て交流が生まれ、お年寄りの社会参加が促され、  
孤立の防止に繋がることも期待される。

